

【事務局だより】 第五十一回衆議院選挙 与野党拮抗の政治体制が大きく後退

2月8日に投票が行われた衆議院議員選挙は、自民単独で定数の3分の2を超える議席となりました。2026年度予算の年度内成立を放棄して「積極財政」と「自維連立政権」の信を問うとして強行されました。最短10日という異例の厳冬選挙の中、野党が掲げている「食料品消費税0」を急ぎ主張するなどして、「消費税減税」や「国論を二分する政策」の政策論議は十分に行われることなく、若者層と高齢者層で明確に割れる「首相人気」先行の民意結果となったといえます。

野党第一党の立憲民主自体も支持率が伸び悩む中、連立政権を離脱した公明と急ぎ「中道改革連合」を結成。選挙戦に臨んだものの「中道リベラルの結集」や「具体的政策」については浸透することなく、原発政策・安全保障・憲法論議については現実的路線に舵を切ったことなどで、野党支持層の7割、中道支持層4割から支持されず、無党派層も全く動かずという大きな逆風で、立憲議員の8割を失う結果となりました。立憲を担ってきた重鎮の幹部議員を失い、日教組組織内議員（日政連）3名と推薦議員2名も全員落選する厳しい結果となりました。

高知においても、連合高知推薦のもと二区「田所ゆうすけ」二区「前田つよし」で奮闘。田所候補は比例「山崎まさやす」候補とともに終始街宣を続けていました。やはり、新党合流の混乱、政策浸透不足、候補者の準備不足などで、無党派層支持も2割程度で盤石の自民2候補に迫ることができず、比例票も前回票を3万票以上減らし、山崎さんに次いでこの比例復活ができませんでした。

連合高知は2月10日、春闘方針を決定する第73回地方委員会を開催。来賓として田所祐介さんと前田強さんが紹介され、それぞれ挨拶に立ちました。田所さんは「現政権への期待に対し中道改革として何をアピールしていくか十分な時間がなく、及ばず誠に申し訳ない。しかし、やり得る限りを出し切り悔いはなく、感謝しかない。中道の今後、立憲、公明、地方に残る組織の動向を注視していく。自分の政治人生はスタートしたばかり、高知を何とか盛り上げたい。スタンスは何ら変わらない。」と述べました。前田さんは「土佐清水市議補選後、国民民主の議員をさらに増やすということで急ぎよの出馬となった。公約したことは落選してもしつかり持ち続ける。野党系が



連合のもとに大きくまとまってくることが重要。今後とも連合高知と連携し必ず公約を貫徹するまで戦い抜く。」と述べました。

高知県議会議員高知市選挙区補欠選挙では、連合高知が推薦した「水野ゆきえ」さんが広田はじめ議員の応援を受けるなどして支持を広げ、定数2の所へ他の2候補を抑え3万7千票余りで見事当選しました。ひとり親や子ども食堂支援の視点で活躍を期待します。

今回の衆議院選で、野党第一党として大変厳しい党勢状況となった中道改革連合、世論意見も厳しい中でどう体制を立て直し、今後の国会の中でどう世論に響く政策提起と論戦を行ない支持を積み上げていくか、また参議院の立憲・公明の動向、地方の政党組織もどうなるのかなど、注視していく必要があります。

2028年に参議院選、27年春に統一地方選挙が控えるなかでは、時間の余裕はないと思います。日教組全国代表者会議では、日教組が掲げる教育政策実現のために今後、あらためて政党とどう協力関係を持つていくのか意見が集中しました。高知からも意見を述べ、「今回の選挙も時間がない中、現退一致で取り組んだ。厳しい結果に特に退職者から意見が相次いでいる。参議院立憲代表の水岡さんの重責は計り知れない。これ以上組織内議員を失うリスクを避けるは誰も同じ。日教組としても総括・意見集約など丁寧に組織論議をしてほしい。参議院日政連議員・推薦議員からの意見や同じく組織議員を出している他の産別労組とも連携して意見交換するなどして、中道改革への向き合い方や参議院立憲の動向に対して幅広い情報のもとで考え方を出してほしい。」としました。

中道比例候補として選挙中ずっと田所さんと闘ってきた「山崎まさやす」さんは組合出身ではないですが、教員出身の人権教育派の方で、国会では教育政策で公教育の充実や奨学金制度の在り方などで質疑に立ってくれていました。教育政策実現で強力な志のある議員です。

平和への思いも強く、当選後の誌上インタビューでは、非核3原則の堅持や集団的自衛権行使、安易な憲法変更には反対し、言うべきは主張すると自分の考えを述べていました。

